

オペラ演出家の三谷礼二氏が受賞  
第 3 回鳥井音楽賞

昭和 4 5 年、サントリー（株）の創立 7 0 周年を記念して設けられた「鳥井音楽賞」（創業者鳥井信治郎にちなんで命名）の第 3 回審査委員会は、例年通り 1 月 2 0 日午後 1 時から東京・大手町のパレスホテル亀の間でおこなわれた。

審査は芥川也寸志、古田徳郎（海外旅行のため投票のみ）、木村重雄、宮沢縦一、丹羽正明、大木正興、菅野浩和、武川寛海、吉田雅夫、吉村一夫、門馬直美の審査員 1 1 氏によって 3 時間にわたって慎重におこなわれ、その結果オペラの制作と演出面で功績のあった三谷礼二氏に決定した。

「鳥井音楽賞」は、前年度の日本のクラシック音楽の発展、向上に最も寄与した日本人に贈られるもので（賞状・記念品・賞金 1 0 0 万円）、財団法人鳥井音楽財団（理事長佐治敬三）が運営に当たっており、本賞の審査委員会は財団の委嘱により構成されている。

なお、審査委員会推せんの三谷礼二氏の受賞に同財団の全理事が賛同し、第 3 回鳥井音楽賞は同氏に決定した。

× × ×

審査経過と三谷礼二氏推せんの理由

第 3 回鳥井音楽賞選考経過について、同日午後 4 時 4 0 分、審査委員代表宮沢縦一氏から概略つぎのように発表された。

選考は各審査委員が個別に挙げた候補個人 1 4 名、団体 4 の審査からはじまり、

個人 5 名 = 今井信子（ビオラ）、館野泉（ピアノ）、山下（打楽器）、三谷礼二（オペラ制作・演出）、福川泉皓（レコード・ディレクター）、団体 1 = 邦楽「4 人の会」に選ばれた。

さらに審査を重ね個人 4 名、今井信子、山下、三谷礼二、福川泉皓に絞り、

さらに審査を重ね、個人 2 名、三谷礼二、福川泉皓に絞り、

最終的に三谷礼二氏を推せんすることに全員が賛成した。

#### 推せん理由

東京室内歌劇場を拠点として、モーツァルトの「カイロの鷺鳥」(昭和46年2月)、ルソーの「村の予言者」(5月)、ロッシーニの「ブルスキーノ君」(12月)の日本初演を手がけたほか、2期会によるベルディの「リゴレット」(6月)、芸術祭主催公演におけるモンテベルディの「オルフェオ」(10月)の公演を演出し、さらに藤原歌劇団による移動公演としてロッシーニの「セビラの理髪師」(春から夏にかけて)を担当するなど。

年間に6本のオペラを手がけ、その演出面にユニークな成果を収めた。音楽を演出の原点に据えて行こうとする三谷氏の演出理論の実践は日本のオペラおよび広く劇場芸術の分野に新風を吹き込んだ。

なお、「20世紀の音楽を楽しむ会」チャペルセンターにおける「宗教音楽の会」の制作にも関与してオペラのみならず現代音楽および古典音楽の普及紹介に多大の力をつくしている。

以 上